

組織委員会

「洛声第二一二号発行」

組織委員会では会員の近況を報告する機関紙「洛声第二一二号」を発行した。

この「洛声」を通して会員同士の情報共有、また親睦を図ると共に組織力も強化していきたい。

これからも、会員皆様の近況等を漏れ落つる事無く掲載していきたく思いますので情報収集の御協力をこの場を借りてお願い申し上げます。



教化委員会

鎮守の杜お祭り体験

教化委員会主催による青少年教化事業「鎮守の杜お祭り体験」が、平成二十八年八月二十一日(日)藤森神社(藤森信正宮司)にて開催された。

この事業は子供達を対象に鎮守の杜(地域の神社)で楽しい時間を過ごしてもらうことにより、日頃から参拝をして頂けるよう、きっかけ作りを目的とした事業である。

当日は、暑さ厳しい日であったが、十八名の子供達が親(保護者)と参加し、用意されたジュース等を口にしながラスーパーボールすくいやヨーヨー風船すくい、竹馬体験を楽しんだ。また、本殿昇殿参拝時には本石委員より参拝作法や藤森神社についてわかりやすく説明がなされた他、仲林教化副委員長の案内のもと宝物殿の見学をさせて頂いた。

この度も子供達の笑顔で溢れる充実した事業となった。この体験を通して、子供達には今後も鎮守の杜(地域の神社)に足を運んでくれることを切に願うばかりである。

最後に、藤森神社様をはじめ、ご協



力いただきました関係各位に心から御礼申し上げます。

（八坂神社・丸茂広知）



教化委員会

「神社探訪（一般教化促進事業）」

去る六月十六日、教化委員会主催による「神社探訪（一般教化促進事業）」が伏見稲荷大社に於いて開催され、雨天の中、京都市内の学生を中心に二十八名が参加した。普段、神社に訪れることの少ない学生ら若い世代を中心に、少しでも神社について興味を持つてもらうことを目的とした当会初の試みであった。まず櫻井会長より開催の趣旨が説明され、本殿にて正式参拝後、神楽殿にて、お神楽の鑑賞をさせていただいた。次に、伏見稲荷大社西野権禰宜による境内案内の後、参集殿にて伏見稲荷大社の由緒や、多数寄せられる疑問を分かりやすく説明して頂いた。質疑応答では学生から多くの質問がなされ、神社について深い内容に及ぶものもあった。定刻後も各会員に熱



心に質問する姿が見られ、我々神職にとっても生きた神道を人に伝えることのできた貴重なひとときとなった。

（北野天満宮・上寫将司）



親睦委員会

「親睦BBQ大会」

親睦行事(親睦委員会主催)が平成二十八年九月五日(月)に開催された。今回は、例年の運動会から内容を変更し、バーベキュー大会となった。MKボウル(上賀茂)にて神青会員並びに事務員、巫女と合わせて総勢三十七名の参加であった。当日は朝から不安定な天気であったが開始時間には小雨になり予定通りの開催となった。会は櫻井会長の乾杯にてスタート。各々が焼肉やビールを楽しみながら親睦を深めていた。途中、強雨に見舞われたが参加者皆が円になり晴天祈願する一幕も見られ、より親睦を深める良いきっかけになったのではと思う。和やかに会は進行し宴もたけなわになる頃、中田副会長による青年会恒例となった「六人部締め」にて親睦会は終了となった。この会をきっかけに青年会会員同士がより多く繋がりを持って頂ければ幸いと思う。

(平安神宮・生寫和顕)



平成二十八年度 新入会員紹介

今年度入会の新入会員を紹介します

①名前 ②生年月日 ③出身地 ④奉務先
⑤好きな書籍、又は、感銘を受けた書籍とその理由



①吉田 靖
②平成元年十月八日
③愛知県
④石清水八幡宮
⑤「新参者」



①林 大道
②平成五年十二月二十六日
③京都府
④石清水八幡宮
⑤「バカの壁」
自分の常識とはまったく違う視点に驚き少し考え方を
変えられた一冊です。



①河谷 真里
②平成六年二月六日
③山口県
④石清水八幡宮
⑤「火花」



①大西 啓文
②平成三年五月六日
③北海道
④賀茂別雷神社
⑤「坂の上の雲（司馬 遼太郎・著）」
明治という激動の時代の中で現在の日本の礎を作り上
げた先人達の姿に感銘を受けた。



①原 健
②平成五年六月九日
③大阪府
④賀茂御祖神社
⑤「日本の祭と神祇（森田 玲・著）創元社」
日本各地で行われている祭の文化から、祭と人の関わ
り、祭の意味、また古くから伝わる人々の祈りについ
て書かれている。私の地元（岸和田）のだんじり祭や、
京都に古くから伝わる葵祭についても書かれており大
学時代、研究の中でこの本を読んだことも奉職を希望
したきっかけの一つである。



①池側 壮真
②平成六年三月十一日
③奈良県
④賀茂御祖神社
⑤「邪魔（奥田 英朗・著）」
面白い内容では無いが、複数の伏線が引かれ卓越した
心理描写で一気に読み上げる事が出来た。



①杉原 淳一
②昭和五十三年十月三十日
③京都府
④大原野神社
⑤「心象スケッチ 春と修羅（宮沢賢治詩集）」
彼の様々な知識が自然から得たものであると感じられ
る点と心の機微が、それらの知識によって彩られてい
る点が感銘を受けた。



①辻林 秀嗣
②昭和六十三年十一月二十四日
③大阪府
④乃木神社
⑤



①櫻井 剛
②平成五年五月十一日
③石川県
④貴船神社
⑤「日本はなぜ世界でいちばん人気があるのか」
(竹田恒泰・著)



①篠原 亮太郎
②平成五年十一月二十四日
③徳島県
④北野天満宮
⑤「ちぐはぐな部品(星新一・著)」
短編小説で読みやすいこの作品は、著者の独創的かつユーモアの溢れた作品で、先の読めないストーリー性は、自身の好奇心をかきたて夢中にさせる一冊であった。



①河合 善多郎
②平成五年六月十二日
③愛知県
④北野天満宮
⑤「國體の本義(文部省編)」
一見堅苦しく難儀な本であるが、日本国の歴史と、その崇高なる精神を分かり易くも詳細に書き、殊に神道の事について、淵源と根本の道理とを明らかにしている一冊である。私は、この本を生涯の教科書としたい、また、近未来にこの本が世に必要とされると予想している。



①芹口 明憲
②平成五年五月二十七日
③京都府
④平安神宮
⑤「鋼の錬金術師」



①綾小路 有優
②平成四年三月九日
③愛知県
④平安神宮
⑤「ノルウェイの森」



①樋口 晴一
②平成六年一月二十九日
③大阪府
④伏見稲荷大社
⑤「修身教授録(森信三・著)」
本当の人生というものが何気なく事が出来た。また、人格を高めることにも言及されていて、これからどのように生きていくか考えさせられた。



①本石 暖迪
②昭和五十六年十二月二十二日
③広島県
④藤森神社
⑤「安岡正篤一日一言(安岡正篤・安岡正泰)」
日々前を向いて物事を正しく見極め進める様な心に響く書籍で感銘を受けた。



①中村 隆人
②平成五年八月十四日
③京都府
④八坂神社
⑤「終戦のローレライ」
登場する人々の生き様が格好良いので。



①吉田 朋洋
②昭和六十二年七月二日
③京都府
④松尾大社
⑤「沈黙（遠藤周作・著）」
キリスト教における神の沈黙をテーマにしたものだが、
日本が舞台で面白く読めるので。



①山本 晃大
②平成五年十月八日
③京都府
④松尾大社
⑤「プリズンブレイク」
初めて拝読した小説であり様々な事を考えさせられた
作であったので。



①森 祥央
②平成五年五月二十八日
③奈良県
④松尾大社
⑤「シラノ・ド・ベルジュラック」
主人公シラノの最初から最後まで貫き通した心意気から。



①吹田 武士
②昭和五十二年二月二十一日
③京都府
④吉田神社
⑤「留魂録」
日本に生まれるという事の重みを感じ、また人生観に
多大な影響を受けたので。



①南條 竜太
②平成五年五月二十六日
③大阪府
④八坂神社
⑤「坂の上の雲（司馬 遼太郎・著）」
明治時代の壮大なストーリーに胸が熱くなりました。



近畿地区報告

平成二十七年・定例総会・研修会・懇親会



平成二十八年六月二日、「ホテルグランヴィア京都」において、近畿地区各単位会会員総勢九十二名(当会より二十六名)参加の下、平成二十七年・神道青年近畿地区連絡協議会定例総会が本年度、当会最後の当番事業として開催された。

定例総会に先立ち研修会が「竹取の間」にて開催され、田中恆清先生(石清水八幡宮宮司・神社本庁総長・京都府神社庁長)を講師として『これからの神社界と青年神職に期待すること』と題して、ご講演を賜わった。田中恆清先生は、ご講演の中で「国宝大神社展とNHK」、「式年遷宮テーマソングと藤井フミヤ」等、数々の自身の経験話をされ、「青年神職は、発想とそれに向けた行動力、また失敗を恐れない心が大切であると共にすべての事は御神縁の賜物であるので崇敬の念と謙虚な姿勢をいつも持ちあわせていなければならぬ。」と、私達青年神職に対して期待の念と心の籠ったお言葉でご教示を戴いた。

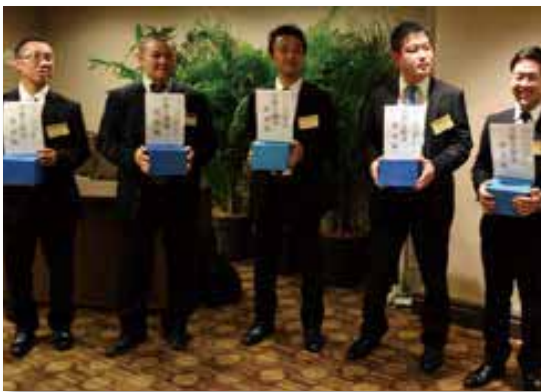


最後に、「その時代に合せて、また個々の地域に合致する神社振興をして頂きたい。」と締めくくられ研修会は終了した。

先生の実践から会員は青年神職として何が出来るか再考したのではないかと思います。

研修会の後、「竹取の間」にて定例総会が多数の御来賓にご臨席賜る中、開催された。定例総会は次第通りに進められ、先ず開会の辞、引き続き神

宮遙拝、国歌斉唱、丸茂教化委員長先導による敬神生活の綱領唱和、その後、長谷川近畿地区会長による挨拶に続き、当番府県挨拶では櫻井会長が挨拶をした。引き続きご来賓の紹介がなされ来賓祝辞と続いた。その後、櫻井会長(議長)による進行の下、議案1号から7号まで慎重に審議され全ての議案が満場一致にて承認された。議案に続き報告事項として1号から5号まで報告がなされ会員に周知された。その次に次期当番府県である大阪府神道青年会の友田昇会長が挨拶をし、その後は、会員皆で「神道青年の歌」「美しき山



河」を斉唱。続いて「聖寿万歳」を会員一同高らかに奉唱後、閉会の辞で滞りなく閉会した。

定例総会の後、「古今の間」に於いてご来賓出席の下、懇親会が開催された。懇親会では翌日開催される野球大会の抽選会（余興）が野



球部事務局長の進藤会員進行の下、行われた。御座敷遊び（とらとら）をテーマにした京都らしい抽選会（余興）に会場は一層盛り上がりを見せ盛会の内に閉会した。

野球大会

神道青年近畿地区連絡協議会野球大会が平成二十八年六月三日、京都市横大路運動公園にて開催された。昨年の和歌山県当番では生憎の雨天によりボウリング大会（優勝・奈良県）となったが、本年は快晴となり強い日差しの中での大会となり、大阪府が見事優勝した。



初戦・対和歌山県

この日は投手である溝脇会員が絶好調。和歌山打線の絞らせずテンポよくアウトをとっていく。そのまま流れに危なげなく京都の勝利。

二回戦・対大阪府

三対〇、なんとしかも追いつかなければならない最終回。室川会員のランニングホームランを皮切りに平安神宮打線に火がつき同点に追いつく。

その後ルールによりじゃんけんで勝敗を決することに。流れは完全に京都にきている。

じゃんけん一回一回に力が入る。これほど真剣なじゃんけんはそうそうお目にかかれない。結果は五―三で大阪の勝利。流れを引き寄せることはできなかった。

三位決定戦・対兵庫県

京都の選手達、残された最後の力を出し切り奮闘するも惜敗。

順位		最優秀選手
一位	大阪府神道青年会	毛利正英
二位	奈良県神道青年会	林 正裕
三位	兵庫県神道青年会	太田隆文
四位	京都府神道青年会	千葉学
五位	滋賀県神道青年会	河毛孝仁
六位	和歌山県神道青年会	桐田智史

（大石神社・進藤大長）

禊・鎮魂鍊成研修会

去る七月十一日、十二日、近畿地区連絡協議会による毎年恒例の「禊・鎮魂鍊成研修会」が奈良県神道青年会主催により、奈良県天理市の石上神宮にて開催された。

今回の研修会には、近畿各府県の神道青年会より二十四名もの会員が参加し、当会からは五名が参加した。

御神域の清らかな空気の中で禊と鎮

魂を行い、真剣なところもちで研修に臨んだ。普段の社務ではなかなか禊・鎮魂を行うことが難しい為、各々にとって非常に貴重な体験となった。また、十一日の午後八時からの勉強会では、大神神社権禰宜山口浩之氏による「忌部氏と『古語拾遺』」と題しての講義を拝聴し、

奈良県を中心とした忌部氏と中臣氏の関わりについての理解を深めた。

そして、十二日の閉講式後には、直会が行われ、終始和やかな雰囲気の中、普段交流する機会の少ない他府県の会員

との懇親を深めることができた。参加者一同にとって、貴重な二日間となった。

(伏見稲荷大社・渡邊元綱)



第二回連絡会・懇親会

生國魂神社に於いて、平成二十八年九月二十一日、大阪府神道青年会の担当にて第一回連絡会が開催され近畿地区二府四県から七十三名(当会から七名)が参集した。

連絡会は次第の通りに、六人部近畿地区副会長による開会の辞に始まり、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和と続き長谷川裕高近畿地区会長挨拶と進められ、当番府県挨拶では大阪府神道青年会を代表して友田昇会

長から挨拶がなされた。続いて来賓紹介がなされ、菅原龍太近畿地区参与に挨拶を賜った。

次に、座長に選出された友田昇会長進行の下、中央報告、特別委員会報告、近畿地区事業委員会報告、各単位会報告が行われ、会の終わりに「神道青年の歌」、「美しき山河」を斉唱の後、稲本高継相談役の先導により参加会員一同声高らかに聖寿万歳を奉唱し、飯尾真幸近畿地区副会長による閉式の



辞をもって第一回連絡会は閉会した。

引き続き、会場をホテルアウィーナ大阪に移し、南坊城光興顧問（道明寺天満宮）ご臨席の下、懇親会が開催された。

長谷川裕高近畿地区会長挨拶の後、来賓の紹介がなされ、来賓挨拶では西角明彦参与（磐船神社）より挨拶を賜った。

懇親会は、南坊城光興顧問による乾杯の発声より盛会となり、大阪に参集した近畿地区会員は顔を赤らめながら普段では接する機会の少ない近畿地区会員との歓談の時間を楽しんだ。終始和やかな雰囲気の下、進化した懇親会は、樹光治参与（止呂支比賣命神社）による中締めにより一度締められ、その後、別れを惜しむ会員の姿がみられる中、懇親会は盛会の内に閉会した。

第二回連絡会 研修会



連絡会に先立ち、研修会が生國魂神社参集殿（四君子の間）に於いて、大阪大学招聘教授・高島幸次先生をお迎えし、『神道と伝承と芸能について（スクナヒコナ・義経・R2・D2）』と題してご講演を戴いた。

講演は、スクナヒコナ（天神）を主軸に、まずスクナヒコナがどのような神なのかから始まり、次に「天神」を「テンシン」・「テンジン」と読み分けられる

事を指摘。その二種の読み方に付随した様々な神社や伝承、またどのように芸能に繋がっていくのかを時折ユーモアを交えながら参加会員に様々な資料や例を挙げ分かり易く順を追ってご説明を頂いた。

副題にある「スクナヒコナ・義経・R2・D2」が一見すると共通点の無いように思える関係が、先生の説明によって繋がりが如何に神道の神話（日本神話）が日本の芸能に深く関係しているのか、また世界に影響を与えているのか理解する事が出来た。

今回の様に文楽といった古来の芸能を大事にする事はひいては「神道（神道の考え）」そのものを大事にする事に繋がるのではないかと思う。また講義を聴講した参加会員一同は神道と芸能の深い関わりを再認識したのではないかと思う。

第二十二回全国戦歿学徒追悼祭

去る、平成二十八年十月二十一日に兵庫県南あわじ市にある「若人の広場公園」において、全国戦歿学徒を追悼する會主催による「第二十二回全国戦歿学徒追悼祭」が午前十一時より斎行された。

本年は、神道青年近畿地区連絡協議会各単位会より、祭員十一名、典儀一名、伶人三名、が集まり祭典がとりおこなわれ、斎主は神道青年近畿地区連絡協議会会長の長谷川裕高会長が務めた。当会京都府神道青年会からは八大神社の竹内政裕会員と石清水八幡宮の林秀明会員の二名が祭員として奉仕した。

当日は、天候に恵まれて、神道青年全国協議会会長の長友安隆会長、当会櫻井会長をはじめとして、神青会員また遺族関係者等の約二百人が参列し開催された。

まず全国戦歿学徒を追悼する會会長並び兵庫県議會議員である永田秀一會長が挨拶され、国歌斉唱、後、追悼祭がおこなわれた。

追悼祭の中では、永田秀一會長の追悼文奉読、海上自衛隊喇叭隊による喇叭吹奏、神楽「みたま慰めの二人舞」の奉奏、福田寺住職による般若心経讀經、キリストの幕屋による讃美歌奉唱がおこなわれた。宗派問わず多宗教での追悼祭であった。

私は昨年 continué この全国戦歿学徒追悼祭に参列させていただいたが素晴らしい追悼祭であり、あらためて英霊に対する気持ちと追悼の念を新たに感じた所存であった。

尚、今回の第二十二回全国戦歿学徒追悼祭の斎場となった「若人の広場公園」は平成二十五年より施設改修整備工事がなされていて平成二十七年三月に改修整備工事が無事完了されたところであり、施設再興後二回目の全国戦歿学徒追悼祭であった。

(向日神社・六人部是充)

中央報告

夏期セミナー

神社本庁に於いて平成二十八年八月二十九日・三十日の二日間にわたり、「平成二十八年度神道青年全国協議会夏期セミナー(神道青年全国協議会主催)」が受講者約百五十名(櫻井会長始め当会から二名)のもと、主題を「人づくりは国づくり」愛と感動の青年神職」として、日本の未来を担う青年神職としての素養を高め、力強く



地域社会に対して発信し行動することが出来る、また日本の礎となる人材を育成することを目的として開催された。

第一講では、「ディズニーに学ぶ人づくり」と題し、ヴィジヨナリー・ジャパン代表取締役・鎌田洋氏による講義を賜った。内容は鎌田氏が十五年間にわたり務められた東京ディズニールンドでの清掃業務(事業)や従業員教育の経験をもとにしたものであった。

また、CS(顧客満足)の事についても触れられ、「人を喜ばせることはビジネスの原点であり、このことは全ての組織運営・個人の生き方に応用できるものである、近年CS志向になりつつあり、思いを共有して主体性をもって行動することが重要である」とご講義戴いた。

第二講では、「おもてなしへの原点回归」何を以って、何を為すのか」と題して、人とホスピタリティ研究所所長・高野登氏による講義を賜った。高野氏は、「リッツ・カールトン」をはじめ著名ホテルに勤務経験されておりその経験をもとにしたご講義であった。



内容は、組織作りやコミュニケーションについてであり、「組織は動かすものではなく動くものである、主体性をもって自分から動くことが大切であり、組織も人もおなじである」ということに加え、また、「どんな業種でも、接する相手が求めることを把握する力が大切であり、そのためには自分の回りに対して圧倒的な関心力を持ち続けて回りをみることが必要である」と高野氏のこれまでの経験を基にしたご講義であった。

第三講では、「文化財との付き合い方」神社を次の時代へ伝える為に「〜」と題して、小西美術工藝社代表取締役社長・デービッド・アトキンソン氏によるご講義を賜った。デービット・アトキンソン氏はこれまでアナリストとして日本経済の分析などされてきてその経験と、現在お勤めの小西美術工藝社に関するをもとにしたものであった。現在観光地においておこなわれている文化財の説明資料の多くは建築工法や素材の紹介だけに留まっていることにふれて、「もっと文化財や文化財周辺の歴史的な出来事なども説明するべきだ」とご講義戴き、また文化財の修繕等についてもご講義戴いた。

この度、三名の経験豊かな講師から研修目的に通じる貴重な講義を賜り、大変意義のある夏期セミナーを受講させて頂きましたこと心より感謝させて頂くと共に、この度の事、関係各位に少しでも還元すべく当会活動、また、神明奉仕に邁進させて頂く所存です。

(向日神社・六人部 是充)

編集後記

「YS-11」。この暗号のようなものが何なのかご存知の方はどの位おられるだろうか。

これは、実は戦後、GHQ/SCAPより航空機製造を禁止され、解除されてからも製造されてこなかった戦後初の国産旅客機である。(YS-11は、昭和三十七年初飛行)

日本の高い技術力が顕著に見られた名機であった。しかし、飛行機(航空機)というものはそもそも何故飛ぶことが出来るのか。その飛行原理を世界で初めて解明した日本人が存在する。その名は「二宮忠八」。飛行機が好きな私も恥ずかしながらこの方を存じ上げなかった。この方の足跡を辿るにつれ不屈の精神に実る稲穂の如く頭が下がる。二宮忠八翁の生涯については巻頭の御寄稿を一読して頂いてご承知の通りであるが、二宮忠八生誕百五十年の記念の年にあらためて今一度この方の事績を顕彰するとともに誇りにしたい。文末ではありますが、玉稿を賜りました飛行神社宮司・友田亭様を始め、八幡浜市教育委員会関係各位、二宮忠八飛行館関係各位、また原稿の執筆にご協力を頂きました会員の皆様には、この場をお借りして篤く御礼申し上げます。

『山紫水明』第一三二号

題字 頼新先生

編集 広報委員会

発行所 京都府神道青年会

発行日 平成二十八年十一月二十日

印刷 株式会社ユニティ

